



門 武 9
冊 395
卷 31



產科新論卷之下

南總 立野龍貞著

門人 南總

伊藤玄貞

東條桃仙

全校

妊娠門

凡婦人經閉シテ後一二月ノ間ハ妊否ヲ決スル
甚難シ余未ダ此ヲ決定スルヲ能ハズト雖日
妊婦ヲ診スルモノ許多ナリ此ヲ脉ニ試ムルニ多
クハ違フナシ其脉數ニシテ滑指ヲ輕クシテ之
ヲ按セバ人迎氣候ノ邊ニ當テ麻子ノ大ノ如クナ



ル脉来ル其形ヲ假令ハ指下ニ丸ヲ作ルガ如キモ
ノ是レナリ若シ此ノ脉ヲ得テ呼吸短息巨里ノ動
甚シキモノハ非ナリ此レ乾血勞ノ症トス世醫容
易ニ妊否ヲ決スルト云モノハ余レ未ダ信ゼズ胎
三月ニ滿ル寸ハ所謂定形ト名ヅケテ四肢ノ狀ヲ
備リ腹ヲ按スレハ手ニ應スルヲ覺フ然レモ悉
ク辨知シ難シ況ンヤ一二月ニ於テヲヤ凡腹ヲ按
スルモノハ先ヅ婦人ヲシテ仰卧セシメ醫其左邊
ニ附テ胸腹ノ動ヲ候ヒ氣息ヲ平常セシメ而後ニ
心下ヨリ漸漸ニ指頭ヲ下シ臍下ニ至リ横骨ノ上

際ニ當テ雞卵ノ大ニシテ皮囊ニ水ヲモリタル如
クナル者在リ之ヲ按セバ半ハ横骨ノ内ニ在ルガ
如キモノ妊娠ナリ

凡ソ妊娠ニ疑似スル者三アリ一曰血塊二曰胞寒
三曰水塊是レナリ其一血塊ハ經水不来シテ小腹
ニ塊ヲ生シ或ハ惡心煩悶シテ惡阻ノ如ク或ハ乳
頭ニ紫黑色ヲ現シ大ニ妊娠ニ疑似スルモノアリ
然レモ妊娠ハ之ヲ按セバ乃チ軟ニシテ半ハ横骨
ノ内ニ在ルガ如クニシテ痛ヲナサズ血塊ハ然ラ
ズ之ヲ按セバ痛ヲナシ或ハ數塊相連ナル者宜ク

之ヲ攻ムベシ桃核承氣湯ニ浮石丸ヲ兼用スベシ
其二胞寒ハ風寒下ヨリ胞内ニ入り胞血運動セズ
依テ胞孳縮シテ横骨ノ上面ニ塊ヲ生シ雞卵ノ大
サノ如シ之ヲ按シテ妊娠ニ疑似スルモノナリ然
レモ妊娠ハ横骨ノ内ニ在ルガ如シ胞寒ハ然ラズ
横骨ヨリ生ズル物ノ如クニシテ塊ト横骨トノ間
相合メ離レズ指頭ヲ容ル、一難シ其輕キモノハ
月經来ル毎ニ疼痛ス其重ニ至ル寸ハ或ハ經水過
多或不来其塊益大ニシ終ニハ臍下ニ及ビ堅硬石
ノ如ク或ハ兩股或ハ咽喉ニ牽引シテ痛ムモノアリ

リ庸醫ノ如キハ此ノ症アルヲ知ラズシテ妊娠
ト謂ハザレバ妄リニ血塊ナリト云テ桃仁承氣ノ
類ヲ投シテ死ヲ致スモノ少ナカラズ溫補ノ劑ニ
宜シハ味九當歸四逆加吳茱萸湯ヲ撰ビ用ユベシ
必ズシモ攻ムベカラズ其三水塊ハ臍下丹田ノ邊
ニ當テ之ヲ按セバ極ノ大サノ如クニシテ手ニ從
テ左右上下其處ヲ移シテ其形ヲ失ハズ此レ又妊
娠ニ疑似スルモノナリ然レモ其位ヒ自異ナレリ
水塊ハ腎氣丸之ヲ主トル若シ其人年月ヲ歷テ腹
滿シテ鼓ノ如キモノハ大黃甘遂湯之ヲ主トル

八味丸方

地黄

山藥

山茱萸

牡丹皮

茯苓

澤瀉

附子

桂枝

右八味水煎

當歸四逆加吳茱萸湯方

當歸

附子

茯苓

澤瀉

芍藥

桂枝

茴香

延胡索

川楝子

吳茱萸

紫胡

右十一味水煎

大黃甘遂湯方

大黃

甘遂

阿膠

右三味水煎

妊娠一二月ノ間心中煩亂不安食セント欲ノ食ス
ルヲ能ハズ或ハ食ノ則吐シ或ハ乾嘔スル者之
ヲ名ツケテ惡阻ト云加味半夏瀉心湯之ヲ主ト
ル若シ蛇蟲ノ變アル者ハ加味小半夏湯ニ宜シ
加味半夏瀉心湯方

半夏

黃芩

黃連

人參

乾姜

甘草

大棗

伏龍肝

牡蛎

右九味水煎

加味小半夏湯

半夏 生姜 烏梅

右三味水煎

妊娠胎動シテ不安モノ加味茯苓丸之ヲ主トル若
シ腹中ニ邪熱在テ此ガ為ニ動スルモノハ黃芩
湯之ヲ主トル若シ其動甚シテ心ヲ攻ント欲ス
ルモノハ名ヅケテ之ヲ子懸ト云治術中卷ニ參
考スベシ

黃芩湯方

黃芩 芍藥 大棗 甘草

右四味水煎

妊娠下血スル者胎動ノ致ス處ナリ加味茯苓丸之
ヲ主トル若シ崩血スルモノハ多ハ胎漏ナリ加
味茯苓丸ヲ與フ不瘥モノハ膠艾湯ニ宜シ若シ
前ノ二方ヲ用テ不止モノハ手術ヲ以テ分産ス
ベシ不然トキハ治シ難シ凡ソ胎漏ヲ療スルモ
ノハ掀起ノ術ヲ熟得スベシ手術ヲ施シテ分娩
ヲ得セシムト雖血暈シテ死ニ向フモノ十ニ
ノ八九ナリ於是余ガ掀起ノ術ヲ施ス寸ハ卒然

トシテ蘇生ス產婦ヲ療ヌルモノ知ラズンバアルベカラス掀起ノ術中卷ニ見ヘタリ

妊娠下血ノ如クニシテ下血ニアラス赤豆汁ノ如キモノ胎腹中ニ死ス加味茯苓丸之ヲ主トル

加味茯苓丸方

茯苓

桂枝

芍藥

桃仁

牡丹皮

大黃

白雞頭花

右七味水煎

按スルニ桂枝茯苓丸經水不利及赤白帶下崩漏ヲ治ス是レ則内ニ瘀物有ルヲ以テ其瘀物ヲ去

ルガ為ニ設ルナリ予此ノ方ヲ試ムルニ唯經水ノ變ノミニアラス吐血衄血等ニ効アリ是ヲ以テ之ヲ考ルニ諸血外ニ走ルモノヲ治シ又内血ノ循環セザル所ヲ通行ス世醫認テ破血ノ劑トスルモノハ誤ナリ予是ヲ調血劑トス血有餘ナル寸ハ下シ血不足ナル寸ハ調フ且ツ八味丸ノ症ニ曰臍下不仁小便不利又曰飲一斗小便一斗ナルヲ治ス八味丸ハ小便ノ利不利ヲ治シ茯苓丸ハ經水ノ利不利ヲ治ス此ノ意ヲ以テ諸方ヲ活用スベシ

妊娠前陰腫滿或ハ陰中痒痛スル者加味茯苓丸ニ
茅根ヲ加フ痒痛ハ坐藥ヲ兼用スベシ則蛇床子
散ニ宜シ

蛇床子散方

蛇床子仁

右一味細末ニシテ白粉少シ許リヲ以テ和シ相
得セシメテ綿ニ包ミ棗ノ大ニシテ陰中ニ入白
粉ヲ白礬ニ代テ用ユ

妊娠二三月腰重クシテ五千錢ヲ帶ルガ如ク或ハ
腹拘急恰モ血症有ルガ如キモノハ此レ胞中ニ

寒在ルガ故ナリ八味丸之ヲ主トル

妊娠二三月小便一滴モ通ゼヌ或ハ小腹滿シテ力

息来ルモノ胞冷ヘ或ハ胎下陷スルニ依テ胞口

陰中ニ脱出シテ水道ヲ壅塞スルナリ名ツケテ

之ヲ轉胞ト云治術中卷ニ参考スベシ治方ハ腎

氣丸ニ宜シ

腎氣丸方

則八味丸ニ車前子
牛膝ヲ加フルナリ

妊娠小便不利水氣アルモノ加味葵子茯苓散之ヲ

主トル証ニ從テ腎氣丸ニ宜シ

加味葵子茯苓散方

葵子

茯苓

西瓜仁

右三味水煎

妊娠水氣アリテ喘促ヲ加ルモノ加味防己散息賁

湯ヲ撰ヒ用ユ

加味防己散方

防己

桑白

茯苓

紫蘇

木香

麥門冬

右六味水煎

妊娠小便不利一身面目悉ク腫レ或喘ニ或渴ニ或大熱アルモノ越婢加水湯之ヲ主トル凡妊娠水

氣有テ巨里ノ動尤モ劇ニク脉沈細ニテ數ナ

ルモノ此レ脚氣心ヲ攻ント欲スルモノ也禹功

飲之ヲ主トル禹功飲方折肱齊腎譚脚氣門ニ見ヘタリ

越婢加水湯方

麻黃

石膏

大棗

生姜

甘草

蒼朮

右六味水煎

妊娠子淋小便不利或疼痛スルモノ地膚湯之ヲ主

トル子淋散亦効アリ

地膚湯方

地膚艸

知母

黃芩

茯苓

芍藥

枳實

升麻

通草

車前子

甘草

右十味水煎

子淋散方

麥門冬

茯苓

木通

大腹皮

甘草

右五味水煎

凡臨產脉已絶スルモノハ參附湯ヲ與フベシ凡
參附湯ヲ服シテ其脉出ヅルモノハ生ク手術ヲ

施シテ分産スベシ若シ産前其脉不出モノハ手
術ヲ施シテ分娩ヲ得ビシムト雖ニ産後必ズ救
ヒ難シ

凡臨産脉平ノ如キモノハ分期未ダ至ラズトス其
脉離經スル寸ハ則分娩ノ度トス是レ古今ノ通
説ナリ然ルヲ賀川氏曰余數驗諸臨産之婦其脉
形真可以當離經之目者數千人中偶得一二人云
云余妊婦ヲ療マル一數十年臨産之婦脉離經セ
ザモノナシ然ルヲ偶得一二人云モノハ何ゾヤ
夫レ離經ハ平脉ノ變ヲ云ナリ平脉ニ過不及ヲ

ルハ皆此レ離經臨産ノ婦離經ノ脉ニアラズシ
テ平脉ヲ帶ルモノ余レ未ダ此レヲ視ズ思ハザ
ルノ甚シキナリ

産後門

凡産後ハ産ノ難易ニ不拘シテ産前ニ加味瀉心湯
ヲ作テ預メ備ヘ分後急ニ此ノ湯ヲ與ヘテ血暈
ヲ禦クベシ

産後血暈ヲ發スルモノ先ヅ掀起ノ術ヲ施シ氣息
ノ平常セシメ而後ニ加味瀉心湯之ヲ主サトル
掀起ノ術中卷ニ見ヘタリ

加味瀉心湯方

大黃

黃芩

黃連

蒲黃

右四味水煎

産後胞衣不下シテ瘀血衝心スルモノアリ胞衣下
ル寸ハ痊ユ下胞ノ術之ヲ主ル若シ下胞ノ術ヲ
施シ下ルヲ得ザルモノハ別ニ一術アリ下ラ
ザルヲナシ治方ハ症ニ從テ可ナリ
下胞ノ術中卷ニ見ヘタリ
産後去血過多及テ小腹絞痛スルモノ芍歸膠艾湯
之ヲ主トル四物湯胃風湯皆効アリ

芍歸膠艾湯方

地黄 當歸 芍藥 川芎

阿膠 艾葉

右六味水煎

產後去血過多反テ小腹堅塊ヲ生ジ疼痛シテ忍ベカラザルモノアリ必ズシモ攻ムベカラズ凡産後小腹ニ塊アルモノハ胞攣縮シテ塊ヲ生ジ痛ヲナスモノ十二八九ナリ八味丸ニ芍藥ヲ加テ之ヲ主トル四物湯胃風湯ノ類亦効アリ

胃風湯方

當歸 川芎 芍藥 白朮

茯苓 桂枝 甘草

右七味水煎

産後瘀血不下シテ小腹堅塊ヲ生ジ疼痛忍ベカラザルモノ桃核承氣湯或ハ加味茯苓丸ニ浮石丸ヲ兼用スベシ若シ前方服シテ反テ痛ヲ加ルモノハ攻ムベカラズ四物湯ヲ與フル寸ハ反テ自ラ下ル胃風湯膠艾湯皆効アリ

桃仁承氣湯方

大黃 桂枝 桃仁 芒硝 甘草

右五味水煎

四物湯方

當歸

川芎

芍藥

地黃

右四味水煎

浮石丸方

浮石

大黃

桃仁

芒硝

右四味細末ニシテ糊ニテ丸ジ病ノ輕重ニ從テ
用ユルニ多少アリ

產後腹中雷鳴シテ下利スルモノ熱利ナリ白頭翁
加甘艸阿膠湯之ヲ主ル凡產後下利スルモノハ
上部ニ熱アリ下部ニ寒アリ上下相交和セス

テ之ヲ致スモノ十ニシテ八九ナリ先ニ其熱ヲ
治シテ後ニ其寒ヲ治スベレ熱ヲ治スルニ白頭
翁加甘艸阿膠湯宜シ寒ヲ治スルニ胃風加附子
湯ニヨロシ庸醫產後ノ下利ヲ治スルニ妄リニ
寒利ト心得テ辛熱ノ劑ヲ投シ遂ニ經年下利不
止或ハ死ニ向フモノ少カラズ此レ皆白頭翁湯
ヲ用ヒザルノ誤リナリ知ラズンバアルベカラ
ズ

白頭翁加甘艸阿膠湯方

白頭翁

黃柏

黃連

梔皮

甘艸

阿膠

右六味水煎

産後利病ヲ患ルモノ先ヅ白頭翁加甘艸阿膠湯ヲ
與フ不痊モノハ病ノ輕重ニ從テ芍藥湯桃仁承
氣大小承氣ヲ撰ビ用ユ

産後急崩血ハ其體ヲ動ス勿レ動スハ益崩ス
宜ク婦ノ人門ヲシテ閉塞セシメ芍歸膠艾湯或
ハ胃風加膠艾ヲ與フベシ若シ手足厥冷脉細ニ
シテ絶セント欲スルモノハ參附湯ニ宜シ若シ
血暈ヲ發スルモノハ掀起ノ術之ヲ主トル治方

加味瀉心湯ヲ兼服スベシ

參附湯方

人參

附子

加炮姜

右三味水煎

産後小便不利腫滿スルモノ腎氣丸之ヲ主ル茅根
ヲ加ルニ宜シ

産後小便一滴モ通ゼズ意利セント欲シテ利セズ
力息頻リニ来ルモノ是レ乃チ轉胞ナリ治術中
卷ニ參考スベシ治方ハ腎氣丸ニ宜シ

産後小便不利一身面目悉ク腫レ咽中水雞聲ノ如

キモノハ越婢加朮湯之ヲ主ル若シ前方ノ証ニ
シテ心下硬滿スルモノハ息賁湯ニ宜シ

産後小便平ノ如快利シテ反テ浮腫スルモノアリ
名ツケテ之ヲ虚腫ト云加味六君子湯之ヲ主ル
加味六君子湯方

人参 白朮 茯苓 陳皮

甘草 半夏 木瓜 大腹皮

右八味水煎症ニ從テ附子ヲ加フ

産後角弓反張スルモノ多クハ水結ノ致ス慶弼リ
其人心下硬滿アルベシ枳朮湯之ヲ主ル若シ心

下軟ナルモノハ痼症ニ屬ス沈香天麻湯ニ烏頭
ヲ去リ釣藤ヲ加テ之ヲ主トル

枳朮湯方

枳實 蒼朮

右二味水煎

沈香天麻湯方

沈香 天麻 益知 防風

半夏 羌活 當歸 白蚕

甘草 釣藤

右十味水煎

產後痙瘳ヲ患ルモノ心下必ス水結在テ其人胸中
閉塞シテ帶ヲ緊束スルガ如クナル者枳實湯之
ヲ主ル結瘕テ後加味四物湯ニ宜シ

加味四物湯方

則四物湯ニ杜仲牛膝ヲ加ルナリ証ニ從テ附子
ヲ加フ

產後咳嗽有テ呼吸息迫語言出テ難キモノ息責湯
之ヲ主ル若シ心下水結アラバ枳實湯ヲ兼服ス
ベシ

息責湯方

桑白皮 吳茱萸 人參 葶藶
半夏 大棗 生姜 桂枝

右九味水煎

產後寒熱往來或頭痛或ハ故ナクシテ自ラ悲傷ス
ルモノ加味小柴胡湯之ヲ主ドル

加味小柴胡湯方

柴胡 黃芩 炮姜 蒲黃
半夏 桂枝 甘草 大棗

右八味水煎

附妊娠麻疹辨

夫レ痘瘡麻疹ハ陰陽ノ二症ナリ痘ハ陰毒ナリ疹ハ陽毒ナリ故ニ治療モ亦陰陽ノ別アリ痘ヲ治スルニ陽藥ノ辛熱ヲ用ヒ疹ヲ治スルニ陰藥ノ寒涼ヲ用ユ痘ニ寒涼ヲ用ユルヲ稀ナリ疹ニ辛熱ヲ用ユルヲ稀ナリ余レ嘗テ孕婦ノ麻疹ヲ患ヒ胎墜シテ母子俱ニ斃ル、モノ十ニレテ半ヲ視ル是レ皆庸醫治ヲ發明セス保赤全書麻疹精要及ヒ麻疹辨證等ノ書ヲ信ジテ專ラ胎兒ヲ獻ヒ四物湯ノ類ヲ以テ主藥トナシ發表及ヒ寒涼

下劑等ヲ不用ノ誤ナリ豈痛傷セザランヤ余レ孕婦ノ麻疹ヲ療スルヲ數十人一モ墜胎スルモノナレ此レ他ナシ其毒ヲ盡シテ遺サザルガ故ナリ孕ト不孕ト豈別ニ方アラニヤ依テ其大率ヲ舉ゲテ以テ庸醫ノ便リトス其詳カナルハ折肱齋醫談麻疹門ニ參考スベシ

凡麻疹發熱ノ初メ傷寒ニ異ナルヲレ唯咽中苦煩惡心乾嘔ヲ殊ナリトスルノミ邪氣表ニ在テ脉浮大ナルモノハ宜ク先ヅ發表スベシ葛根加石膏湯之ヲ主ル若シ脉沈實ナルモノハ發熱シ

テ表症ニ似タリト雖モ表藥ヲ與フベカラズ涼
膈加石膏湯之ヲ主ル涼膈加石膏湯ヲ與ヘテ脉
浮大ニ變スル寸ハ則表出ノ候トス葛根加石膏
湯之ヲ主ル岡村氏曰麻疹ヲ療スル傷寒ヲ治ス
桂枝麻黃羌活ノ類ヲ用ユベカラスト云云然レ
ドモ方ヲ處スルニ至テハ豈傷寒ニ殊ナルヲ有
ンヤ表ニ在ル寸ハ之ヲ發レ裏ニ在ル寸ハ之ヲ
下ス唯寒涼ヲ專ラニスルノミ岡村氏ノ言ノ如
キハ世ヲ誤ルヲ甚シト云ベシ

凡麻疹出透シテ額上ヨリ没シ下リ已ニ目下ニ至

ル寸ハ則表症去毒氣胃ニ入リ其輕キモノハ自
ラ下利シテ瘥ユ其重ニ至ル寸ハ自ラ下利スル
ハ一能ハスレテ譫語煩亂不安此ノ時ニ當テ脉ノ
浮沈ヲ問フ一ナク急ニ大承氣加石膏湯ヲ與テ
下スベシ若シ下ス一遲キ寸ハ胎墜シテ惡症百
出ス遂ニ死ニ至ルモノ十ニシテ八九ナリ
凡麻疹ヲ療スルモノ毒ノ輕重ト體ノ虛實トヲ問
フ一ナク出透シテ額上ヨリ没シ下リ已ニ目下
ニ至テ自ラ下利ナキモノハ譫語煩悶ナレト雖
モ大承氣加石膏湯ヲ與テ之ヲ下スベシ若シ然

ラザル寸ハ惡症須臾ノ間ニ出遂ニ死ニ向フモ
ノ少カラズ慎ミズンハアルベカラズ

凡麻疹衄血スルモノ熱毒盛ナルガ故ナリ黃連
解毒加石膏湯三黃瀉心加石膏湯ヲ撰ビ用ユベ
シ

凡麻疹黑便ヲ下スモノ大承氣加石膏湯之ヲ主ル
黑便常ニ變ズル寸ハ症ニ從テ方ヲ處

凡麻疹下ス一遲フシテ變ジテ利病トナルモノハ
大承氣加石膏湯之ヲ主ル便色常ニ復シテ後ハ
胃風湯ノ類ニ宜シ

凡麻疹皮中ニ在テ日ヲ歷テ發出スルヲ能ハザル
モノ之ヲ名ツケテ癰疹ト云脉浮大ナルモノハ
葛根加石膏湯之ヲ主ル脉沈實ナルモノハ先ヅ
承氣湯ヲ與テ胃ノ氣ヲシテ和セシムル寸ハ脉
必々浮大ニ變ズ此時葛根加石膏湯ヲ與ル寸ハ
見點ス凡癰疹ハ脉浮大ナルモノト雖モ表藥ヲ
用テ發出シ難キモノハ少ク承氣湯ヲ與テ胃ノ
氣ヲシテ和セシムベシ然ラザレバ出透シ難シ
凡麻疹下シテ後渴シテ煩躁スルモノハ白虎湯之
ヲ主ル若胸中ニ煩悸アルモノハ三黃瀉心加石膏

湯二宜之

凡麻疹餘毒了ルモノ荆防敗毒ノ類ニ宜シ

葛根加石膏湯方

葛根 麻黃 芍藥 大棗

生薑 甘草 桂皮 石膏

右八味水煎

涼膈加石膏湯方

薄荷 甘草 連翹 大黃

芒硝 桔梗 梔子 黃芩

石膏

右九味水煎

大承氣加石膏湯方

大黃 厚朴 枳實 芒硝

石膏

右五味水煎

白虎湯方

石膏 粳米 知母 甘草

右四味水煎

三黃瀉心石膏湯方

大黃 黃芩 黃連 石膏

產科新論 卷之十 十一

右四味水煎

黃連解毒加石膏湯方

黃芩 黃連 黃柏 梔子

石膏

右五味水煎

荆防敗毒散方

防風 荆芥 羌活 柴胡

薄荷 連翹 桔梗 枳實

川芎 茯苓 金銀花 甘肅

右十二味水煎

胃風湯方

前二見へ
タリ

產科新論卷之下終

產科新論 卷之十 十二

附錄治驗

先生弱冠而醫術ニ志シ世婦ノ險産ニ遇ヒ非命斃
ル、者不少ヲ見ルニ不忍最モ産科ノ術ニ慮ヲ殫
シ思ヲ潜メテ其底蘊ヲ究ム嘗テ書ヲ撰テ先輩未
發ノ神秘ヲ洩ラス當時其神術ヲ稱セリ横逆ノ險
産ニ至テハ症ヲ觀色ヲ察シ其治術ヲ施スニ皆ナ
手ニ應シテ痊ユ平生危ヲ救ヒ癢ヲ起ス救擧ニ勝
ヘス蓋シ古今一人ノミ余レ常ニ侍坐シテ目撃ス
ル所ノ者ヲ證記シテ後裔ニ貽ラントス近頃門友
ト相議シテ嘗テ哀載スル所ニ就テ鈔録シテ凡ニ

十五條ヲ得タリ因テ先生著書ノ後ニ附載シテ其
治驗ノ神ナルヲ傳フ

文政三年冬十一月

門人 奥品一閑藩 大内玄真誌

治驗

一諸侯ノ臣山田氏妻臨産陣疼頻リニ来リ分娩セ
サレテ六七日醫ヲ更フルニ數十人皆寸效ナク手
ヲ束テ辭ス家人唯死ヲ待ツノニ倚ラニ師ヲ知ル
モノ有リ請フテ治ヲ求ム往テ診スルニ脉来ル
蜘蛛絲ノ如シ面黎黑色ヲ見ハシ人事ヲ省ニス小
便固ヨリ通ゼス小腹堅滿ノ石ヲ盛ルカ如シ命旦
夕ニ在リ急ニ導水ノ術ヲ施シ小便ヲ通利セシム
師ノ曰危ヒカト今一時ヲ緩スル寸ハ脉已ニ絶テ
分娩ヲ得セシムト雖ニ後必斃レニ急遽ニ參附湯

二貼ヲ作テ與ヘ服セシム神氣稍稍復スルヲ得
又加味瀉心湯一貼ヲ作テ投ス且告テ云此レ産後
ノ劑ナリ其期ニ備ヘヨ我今分娩サスベシ時ニ傍
ニ一醫生アリ師ノ奇術アルヲ知ラズ抱腹絶倒
師ニ謂テ曰衆醫已ニ手ヲ束テ治スルヲ得ス今
唯脉ヲ診スルノミ何ソ産不産トヲ辨シ得ニヤ然
ルヲ浩然トシテ産後ノ劑ヲ作テ其期ニ備ヘヨト
云フモノハ此レ太早計豈ニ妄言ニアラサルヲ
得ニヤ師自若トシテ曰今我レ分娩セシムベシト
云テ徐徐トシテ起テ婦ノ尻後ニ坐シ探宮スルニ

正産ニ屬ス私ニ思フ正産ニシテ兒頭横骨ニ挟ム
者ニハ非ズ然ラ分難生ニ羅リ衆醫手ヲ盡シテ其
達生セシムルヲアタハス師甚タ是レヲ恠ミ因テ
細ニ探宮スルニ宮口全ク開テ宮口ヨリ二寸許リ
上テ大筋アリ子宮ノ中央窪クシテ輪ヲ入ルカ
如クナリ指頭ヲ納レテ此レヲ試ムルニ僅ニ二三
指ヲ入ル其形中窪ニシテ胡盧子ノ如シ此レ兒頭
出ルヲ能ハザル以所ナリ為ニ知元ノ術ヲ施シ忽
チ分娩ス遂ニ其母全キヲ得タリ其後娠再三ニ
及ビ皆ナ如此ト雖師ノ術ニ頼テ分娩ス

南總宮原村文右衛門妻產後血暈ヲ發シ百脉皆絶
 シ人事ヲ省リミズ殆ント死狀ノ如シ為ニ一醫生
 ヲ招ク診シテ曰今救フベキノ手段ナシト云テ逃
 レ去ル急ニ來テ師ヲ請フ時ニ師外ニ出テ在セズ
 因テ門人某往テ診ス脰之據所ナシ唯衝脉絶ヘズ
 僅ニ蜘蛛絲ノ如ク牙關緊急シテ湯藥口ニ入ラズ
 為ニ掀起ノ術ヲ施ス忽然トシテ蘇生ス坐中愕然
 トシテ曰足下ノ如キモノハ實ニ扁倉ノ徒ト謂ツ
 ベシ答曰此レ我カ功ニアラズ我カ師累年ノ工夫
 ヲ極メテ是ノ術ヲ得タリ是ヲ掀起ノ術ト名ク實

ニ奇奇妙妙救危起絶此術ニアラズンバ施シ難シ
 醫之ヲシラズンバ有ベカラス譬ヒ諸難分娩ヲ得
 セシムト雖臣頃刻ニシテ血暈ヲ發スルモノ少ナ
 カラズ此急ヲ救ハント欲シテ藥石ノ能ク及所ニ
 アラズ庸醫ノ如キハ眩惑ノ逃レ去ル於是其術ヲ
 施ス寸ハ乃チ其效立而待ベシ亦愉快ナラズヤ
 一諸侯臣奥平氏妻妊娠六七月外邪ヲ被リ胎已ニ
 下ラントス師ヲ延テ診セシム往テ之ヲ診スルニ
 脉微ニシテ絶セントス又此レヲ探宮スルニ白膜
 未タ破レズシテ胎半身ヲ露ス為ニ按腹シテ此レ

ヲ出セバ囊兒ナリ一醫生側ラニ坐シ問テ曰ク此
レ何物ゾヤ師ノ曰此囊兒ナリ醫又曰胞衣下ルヤ
否ヤ師因テ兒ノ領下ノ膜ヲ指頭ニ撮ミテ謂テ曰
此レ乃チ胞衣ナリト醫生其胞衣ナルヲ辨セズ
シテ曰胞衣トハ後産ノ一ナリ後産ハ下ルヤ否ヤ
師又兒ノ背面ノ白膜ヲ取リテ曰此レ即チ後産ナ
リ醫猶ヲ解了セズシテ又問フ肉ノ糜爛スルカ如
ク紫黑色ナル者ハ何ソヤ師曰此レ亦胞衣ナリ醫
曰胞衣ハ蓮葉ノ形ニ似タル者ナリ此レハコレ異
狀ナルモノナリ後産ニアラス恐ラクハ胎熱ノ為

ニ損壞セラレテ下ル者ナラン師曰此レ乃チ胞衣
ノ常形ナリ嗚呼足下ハ賀川氏ノ説ニ拘泥シテ未
タ實物ヲ見得セザレハ之ヲ疑フモ亦宜ナルカナ
賀川氏嘗テ著ス所ノ胞衣及ヒ囊兒ノ圖皆妄説ニ
シテ信スルニ足ラス夫レ兒ノ腹中ニ在ル兩脚ヲ
屈メテ鼻頭ヲ兩脚間ニ當テ雙臂ヲ左右ノ章門穴
ノ邊ニ當テ指ヲ屈メ左右各耳下ニ置キ其狀圓繞
シテ雞卵ノ如シ胞衣ノ表面此ノ如クシテ裏面ハ
ハ乃チ足下ノ謂フ所蓮葉ノ如キ者ナリ臍帶ハ必
ス臍中ニ屈曲シテ其狀チ大腸ノ如ク其末長サ二

寸許リニシテ兒ノ鼻染ニ并ビ上テ胞ノ裏面ニ附
着ス賀川氏囊兒ノ圖ハ兒膜ノ内ニ在テ地ニ墜ッ
其胞衣ハ母ノ腹中ニアリ且ツ臍帶ハ白膜ヲ貫ヌ
キ胞ノ表面ニ附着ス囊兒ノ狀豈ニ然ランヤ因テ
膜ヲ割テ此レヲ見スルニ果ノ其言ノ如シ醫生慙
服ス

南總大桶村市太郎妻産後子宮脱出シテ納ラス産
婆胞衣ナリト認テカ息セシメ引キ出サントス益
益引テ益々出デズ亦一醫生産科ト稱スル者ヲ招
ヒテ療セシム醫士之ヲ納ルヲ能ハズ於此家人治

ヲ師ニ請ハシテ議ス醫生師ヲ罵リ其言ヲ拒シ
テ招カシノズ数日ヲ經テ猶ヲ收ラズ家人私ニ来
テ師ニ告ケテ曰先生ノ女科ニ於ケル其奥蘊ヲ究
ムルヲ聞ク或醫生先生ヲ謫毀シテ拒ム日夜留テ
治ヲ施セ氏其效ヲ奏セス願クハ私ニ来テ之候シ
為ニ一ヒヲ惜ムト忽レ師往テ之ヲ訪フ醫生坐ニ
在リ傲氣容ニ満ツ曰ク此レ陰肉脱出者也余レ産
科ヲ業トスルヲ久シ然レ氏猶ヲ收ラズ是下凡手
ノ能クスル處ニ非ズト師其倨傲不仁ヲ惡ムト雖
氏從容トシテ曰先生ノ術ノ及ハザル處余カ力盡

ノ能ク及フベキニアラズ願クハ進益ノ為ニ一診
セント即チ婦ノ前ニ坐シ脱出スル物ヲ見ルニ默
黒色ニシテ堅キ一石ノ如シ師獨笑シ私ニ家人ニ
告テ曰今余レ納ムベシ竊ニ家人ニ命シテ温湯ヲ
持テ来ラシメ為ニヨク蒸シテ其柔軟ナルヲ候ヒ
海羅汁ヲ塗リ此レヲ納サム立トコロニ故ニ復ス
起テ醫生ノ席ニ就キ納メ得ザルノ色ヲ見ス醫生
師ノ顔色ヲ見テ云此症庸醫ノ能ク治スル處ニア
ラズト云テ緩頰自贊スルヲ甚シ師曰實ニ先生ノ
言ノ如シ余カ庸工ノ能ク治スル處ニアラズト云

テ歸テ告ク醫猶ヲ悟ラズ立テ其脱スル物ヲ見レ
ハ已ニ故舊ニ復ス醫慙服シテ色ヲ失ス始テ其術
ノ拙ヲ悟リ其業ヲ勉ムト云
南総久久津村一農夫ノ妻妊娠三月ニシテ轉胞ヲ
患ヒ小便一滴モ通セザルヲ五十日余一身腫脹シ
テ面目ヲ辨セズ腹脹大ニシテ帶ヲ以テ之ヲ圍繞
スルニ猶不合一數寸諸醫手ヲ束テ坐視スルノミ
傍ラニ師ヲ知ル者アリ延テ之ヲ診セシム師家人
ニ命シテ尿器ヲ持テ来ラシメ導水ノ術ヲ施シ小
便手ニ從テ快利スルコト數升而後水脹立ドコロ

ニ成レ一時ナラズレテ平素ニ復ス累日ノ患悉ク除ク

一候ノ室妊娠九月ニシテ一身水腫四肢麻木ヲ見ハシ臨産心腹苦痛巨里奔馬ノ如シ終身紫黑班ヲ見ハス諸醫手ヲ束テ師ヲ請フ走リ診スルニ臨産ノ兆ニアラズ此レ小陰經ノ脚氣衝心ニシテ然ラレハル者也蓋シ脚氣ニ三種アリ腫滿轉筋衝心是ナリ此ノ症モ亦三種中ノ一症也若シ産前ニ衝心ヲ治セザレバ禍ヒ踵ヲ旋サス按腹スルニ畧死胎ニ類ス難症悉ク具備セリ依テ固辭ス候ノ曰勿レ

我レ醫ヲ不學ト雖此ノ症ヲ察スルニ百中ノ一モ生クベキノ理ナシ今意ヲ動シ醫ヲ轉ズル寸ハ益救フベキノ由ナキヲ吾之ヲ知レリ曾テ子ノ醫術ニ妙アルヲ識ル我決然トシテ子ニ嬖ノ命ヲ托セリ子ノ手ニ從テ死スト雖且ツ憾ミナシ候ノ一言心ニ通シ膽ニ徹シ遂ニ逃レ去ルヲ得ヌ為ニ八味丸煎湯魚ルニ茱萸湯ヲ以テス重子服セシムルヲ數劑巨里稍稍穩ニ隔從テ開ク依テ包頭ノ術ヲ以テ分娩セシム果シテ死胎糜爛シテ出ツ手足麻木猶ヲ治セヌ畧土隅人ノ如シ此レ水結

ノ致ス所ナリ遂に枳朮湯ヲ投シ魚ルニ腎氣丸煎湯
ヲ服セシム進ムルニ數日ニシテ全ク瘉ユ

北總生實村源兵衛妻臨産五日婉スルニアタハス
衆醫效ナク治ヲ師ニ求ム往テ之ヲ診スルニ母子
供ニ死シタリ依テ辭シ去ントス看守者ノ曰産婦
先生ヲ待ツト久シ今不幸ニシテ先生ノ診ニ與カ
ルニ能ハス遂ニ分娩ヲ得スレテ死ス家人先生ヲ
迎ルノ遅キヲ悔ユ願クハ分娩ヲ得セシメテ婦ノ
本意ヲ遂ケレメシ師曰是何謂ソヤ今分娩ヲ得セ
シムル寸ハ只益ナキノミニアラズ返テ家人ノ後

悔益甚シカラント傍人曰然リト雖に分娩ヲ求ム
ルハ家人ノ願ヒナリ且ツ傍觀者先生ノ術ヲ喧
傳ノ此ノ郷ニ弘ムル寸ハ又後婦ノ非命ニ關ルモ
ノヲ救フ端ニ非スヤ再三固辭スト雖に可カス止
ト得スレテ遂ニ挺胎ノ術ヲ施シ分産セシム其
後其言ヲ聞テ横逆坐正ノ險産ニ遇テ来テ治ヲ乞
フモノ踵ヲ繼ク一モ死スルモノナシ

東都加賀街工人甚五郎妻雙胎ナリ二子トモニ平
産ニシテ胞衣下ラズ瘀血衝心シテ斃レントス諸
醫手段盡テ治ヲ師ニ求ム往テ之ヲ診スルニ其脉

終ノ如シ急ニ掀起ノ術ヲ施シ氣息ヲ平常ニセシ
メ後下胞ノ術ヲ施シ胞ヲ下シ繼ヒテ加味瀉心湯
ヲ服セシメ日ナラスシテ舊ニ復ス

南總今富村一農夫ノ妻妊毎ニ横生ヲ患フル一七
回皆治ヲ師ニ求メテ恙ナシ依テ師其夫ニ言テ曰
以後妊毎ニ皆必ス横産ナルベキノ兆アリ妊三月
ニ及ハ、必ス余ニ告リヨ往テ按腹シテ其患ヲ免
レシムベシト其夫之ヲ聽用セズ果ノ其後横産ノ
患ヒニ遇ヒ遽テ、師ヲ延テ之ヲ診セシム往テ診
スルニ脉已絶シ死証悉ク備ル依テ辭シ去ラント

ス衆皆曰願ハ先生ノ術ヲ蒙リ先生ノ藥劑ヲ與テ
死地ヲ免レザレバ是レ則チ天命ナリ何ゾ之ヲ怨
ミンヤ依テ參附湯ヲ作テ服セシム後テ知元ノ術
ヲ施シ分娩ス復參附湯ヲ投シテ去ル其夜果ノ没
ス是レ非命ノ死ト謂ツベシ曩者ニ其言ニ從ヒ三
月ニ及ンテ速ニ治ヲ求メハ今此ノ患ニ遇フナ
カラン危ニ臨ンテ救ヲ請ヒ臍ヲ噬ムト雖何バ
及ハン愚ニメ自用確言ニ背キ遂ニ此ノ難ニ遇
リ哀イ哉

東都竹川街南部屋彌兵衛妻臨産婉セザル一三四

日諸醫手ヲ求ヌ依テ治ヲ師ニ求ム往テ之ヲ按腹
スルニ雙胎ナリ此レヲ探宮スルニ兒頭橫骨ニ掛
テ窪ニテ出ツルヲ能ハザル者ナリ為ニ手術ヲ施
シ分産セシメント欲スレモ毫モ動カズ母モ亦危
ニ濱ス遂ニ參附湯ヲ作テ服セシム挺胎ノ術ヲ施
シ一兒ヲ娩ス而去後胎時有所陣疼到ルト雖モ
獨リ達生スルヲ得ヌ又人ヲシテ來ラシム後ヲ
往テ此レヲ探宮スルニ橫産ナリ胎已ニ死ス為ニ
橫蘇ノ術ヲ施シ分産ス母命全キヲ得タリ
北總中野村兵左衛門妻年四十余已ニ産シ胞衣下

ラザルヲ四五日師ノ女科ヲ能クスルヲ聞テ夜半
來テ門扉ヲ叩テ其由ヲ告ク超馬ニテ到ル也ヲ診
スルニ脉虛ニシテ數面色青ク四肢微冷汗出テ衣
ヲ沾シ額上尤モ甚シクノ連珠ノ如シ恰モ死狀ニ
似タリ唯呼吸平靜ニモ未タ絶ヘズ急ニ十全大補
加附子湯ヲ作テ服セシメ再ヒ診スルニ脉稍神ア
リ依テ秘ニ思フ今胞衣下ラザル寸ハ後必ス患ヲ
生ス為ニ探宮スルニ宫外石塊ノ如キ者アリ之ヲ
引ケバ痛ミ腰間ニ徹ヌ是レ產婆妄リニ宮口ヲ引
テ之ヲ致スモノニ似タリ依テ此レヲ問フ產婆云

只探宮スルノミ未タ強テ引カズ只手ヲ束テ先生ノ来診ヲ待ツノミト又之ヲ探リ觀ルニ子宮ニアラズ膀胱ニアラズ為ニ下胞ノ術ヲ施シ忽チ一物下ル把テ之レヲ觀ルニ乃チ胞衣ナリ其堅キヲ石ノ如シ余レ始テ胞衣ノ堅靱此ノ如キヲ見タリト云

一諸侯臣年見氏妻産後小便不利ヲ患ヒ諸醫治スルニアタハズ依テ治ヲ師ニ求ム往テ之ヲ診スルニ脉洪大ニシテカラナク其腹状ヲ按スルニ小腹硬滿セズシテ反テ心中煩亂安カラズ其呼吸ヲ察

スルニ吸シ易クシテ呼シ難シ因テ家人ニ告テ曰利水ノ劑損在テ益ナシ此ノ症心肺ノ氣下降スルチハ小便自ラ通利スベシト遂ニ麦門冬湯ヲ與フ飲胃ニ入テ小便通利シ日ナラズシテ諸症全ク瘳ユ

南総向田村金左衛門妻妊毎ニ横生ニ非レバ必ズ逆生ス胎皆斃ル凡十余産者此ノ如シ後妊ス依テ師ニ治ヲ求ム往テ之ヲ診シ三月ヨリ按腹シテ横逆ノ患ヒナク彌月ニシテ一兒ヲ産ス其兒今ニ恙ナシ此レ按腹ノ功アルヲ豈ニ淺淺ナランヤ

東都芝口山城屋清七妻產後數日ヲ經テ喜シテ生
米ヲ食フ一日ニ一二合或ハ三四合此レ非常怪異
ノ症ナリ家人此レヲ憂ヒテ醫ヲ招クテ數人皆此
レヲ療スルヲ能ハズ因循殆ント八年家人師ノ東
都ニ家スルヲ聞テ來テ治ヲ請フ往テ之レヲ診ス
ルニ渾身青色ヲ見ハシ短氣シテ行歩スルヲアタ
ハズ其爪甲ヲ觀ルニ柔軟ニシテ其薄キヲ紙ノ如
ク反張ノ匙ノ如シ口舌俱ニ白フノ血色ナシ師ノ
曰傷ムヲ勿レ此レ脾肝ノ血虛也遂ニ逍遙散ヲ作
テ服セシメ兼ルニ健脾丸ヲ以ス三日ニシテ生米

ヲ食スルヲ止ミ一月許ニシテ全癒ユ
北總千葉驛吉野屋某妻妊娠六月落馬シテ心腹卒
痛手足緊急ニテ忍フヘカラス師ヲ延テ之ヲ診セ
シム往テ診スルニ呼吸息迫苦礫見ルニ忍ヒズ其
腹狀ヲ按スルニ胎動ニテ奔豚ノ如シ依テ家人ニ
告テ曰是レ乃チ子懸ト云フ者ナリ急ニ救懸ノ術
ヲ施シ鎮帶ヲ緊束セシメ加味茯苓丸煎湯ヲ與テ
痛苦立トコロニ退キ後チ彌月ニシテ產ス母子共
ニ恙ナシ

東都加賀街若狹屋某妻產後下痢ヲ患ヒ休止變了

リ四五日瘧テ二三日復瀉下ス諸藥功ナク依テ師
ニ治ヲ請ハントス一醫生師ヲ罵ル一土芥ノ如シ
若シ誤治セバ悔ルモ何ヲ及バシ家人其言ヲ信シ
テ止ム數月ヲ經テ猶ヲ解セズ疲勞益甚ニ加フル
ニ一身水腫小便不利寒熱氣急血暈等ノ諸症ヲ發
舌傷レテ飲食スルコトアタハズ只嬾舊ヨリ篤ク師
ヲ信ス衆人ノ言ヲ拒ンテ固ク治ヲ乞フ為ニ往テ
之ヲ諄スルニ上部有熱下部寒アリ上下相ヒ順接
セズ此レ休息痢ヲナス所以ナリ依テ白頭翁加甘
草湯ヲ作り投スルコト三日後胃風湯加附子ニ轉ス

投スルコト十日許ニシテ諸症半退キ約スルニ二十
日許ニシテ故ニ復ス

南總海士村七郎兵衛妻年三十余臍下塊ヲ生シ毎
月經水時ヲ以テ来ル醫以テ血塊トナシ數日劑ヲ
投シテ塊益熾ナリ依テ治ヲ師ニ求ム往テ之レヲ
診スルニ脉滑ニシテ數其腹ヲ按スルニ横骨ノ上
際ニ當テ塊アリ此レヲ按セバ痛ヲナス師曰經来
リ且ツ痛ミヲ加ル氏妊娠ナルコト疑ナシ胎已ニ四
月ニ滿ツ婦其言ヲ信ゼズシテ曰經水時ヲ以テ来
リ且ツ惡食ノ患ヒナシト師曰往日血塊トナシテ

妄リニ破血ノ劑ヲ投ス故ニ之レヲ按シテ痛ヲト
ス且ツ經水來ルユヘニ惡阻ノ患ヒ無キナリ余ガ
言ヲ疑フヲ勿レト遂ニ芎藭膠朮湯ヲ作テ之レヲ
與フ後月ヨリ經水斷ス彌月ニシテ好男兒ヲ産ス
母子此ニ恙ナシ

一諸侯臣相澤氏妻臨産兒頭横骨ニ掛テ娩セザル
一三日遂ニ水道閉塞シテ小便一滴モ通ゼス心下
堅滿シテ石ノ如シ心中煩亂シテ絶セシトス産科
者ノ來ルモノ三人皆手ヲ束テ治スルヲアタハズ
家人治ヲ師ニ請ハン一ヲ議ス前醫師ヲ嘲ケツテ

曰彼レ唯巧言ノミ何ヲ之レヲ能センヤ師為ニ導
水術ヲ施シ小便手ニ隨テ通利スルヲ約スルニ四
五升計リ醫其通利ノ音ヲ聞キ膽ヲ消シ竊ニ逃レ
去ントス自ラ反フシテ曰今逃ル、寸ハ一時ノ辱
ヲ免ルベシ然リト雖此ノ一術ニ熟達セザレバ
後子必ス臍ヲ噬シ耻ヲ知ルハ勇ニ近キモ亦此
ヲラント遂ニ師ニ面謁シテ膝行頓首シテ曰先生
ノ術ニ於ケル至レリト謂フベシト前ノ惡言却テ
善ニ翻ヘリ大ヒニ慙醜スト云爾

北總坂尾村勘右衛門妻年四十二臨産娩セザル

七日諸醫橫議シテ分娩セシムルヲアタハズ家人
皆揮淚ノ其死期ヲ待ツノミ倚ラニ師ヲ知ル者
ツテ治ヲ師ニ求メントス諸醫笑テ曰皆湯液百方
及ヒ手術ヲ施シテ達生スルヲ能ハズ氣力浸衰ヘ
疲勞言フベカラズコレ不治症ナリ立野氏何ソ能
ク之レヲ療センヤ家人此ノコトヲ聞テ膽ヲ墜シ
竟ヲ失ヒ存スルガ如ク亡スルガ如シ傍人又曰今
天命ニシテ死期極ル寸ハ死ス民且ツ怨ルヲ無力
ルベシ若シ幸ニ死地ヲ免ル、一ヲ得バ是レ則チ
天幸ト謂フベシ且ツ彼其術ニ長スト聞テ治ヲ請

ハザルモノハ豈ニ人事ヲ盡スト云フベクニヤ家
人其言ニ從ヒ急ニ馬ヲ走ラシメ往テ之レヲ診ス
スルニ色脉トモニ脱メ據ル處ナシ唯呼吸平常ニ
シテ眼肉未タ脱セズ然レモ氣力衰盡シテ其苦楚
スルヲ自ラ知ラズ就テ此レヲ探宮スルニ兒頭
横骨ニ掛テ出ズルヲ能ハザルモノナリ退テ家人
ニ謂テ曰聊カ憂フルヲ勿レ今余レ産セシメハ平
素ニ復スルヲ疑ナシ急ニ參附湯ニ貼テ與ヘテ服
セシム脉稍神アルヲ覺フヨツテ亦加味瀉心湯
ヲ與テ云此レ産後ノ劑ナリ湯沸騰セハ余ニ告ゲ

ヨ速カニ産セシメント衆醫其言ヲ聞テ抱腹吐舌
ス師亦冷笑シテ衆醫ニ謂テ曰余レヲ嘲ケルヲ勿
レ少間留テ我カ術ノ如何ヲ視ヨ遂ニ包頭ノ術ヲ
施シ分娩スルヲ得タリ衆醫タニ然トシテ去ル
産婦悦テ曰妾殆ント死スルヲ七日ニ至ル今先生
一旦ニ之レヲ挽セシム實ニ吾命ノ主ナリト云爾
東都八町堀加賀屋仁三郎妻隻胎先出平常ニシテ
一男兒ヲ挽ス後出手ヲ出シテ達スルヲ能ハズ醫
ノ来ル者五六輩皆ナ手ヲ束テ坐視スルノミ治ヲ
師ニ請フ往テ診スルニ兒手ヲ出シテ膊ニ及ヒ此

レヲ推テ納ラス此レヲ引テ動カス難生中ノ尤モ
難ナル者ナリ為ニ知元ノ術ヲ施シ遂ニ其母全キ
ヲ得タリ
東都総十郎街葺屋嘉七妻小腹一塊ヲ生マ一醫生
ヲ延テ診セシム認メテ血塊病トナシ即チ桃仁承
氣湯ノ類ヲ服セシム效ナシ又醫ヲ轉ズルヲ十餘
人皆ナ血塊病トナシテ破血ノ劑ヲ進ムルヲ三年
餘病勢日ニ増シ疼痛忍フベカラズ塊ノ大サ如
盤ノ杯勺口ニ入ラザルヲ數日依テ治ヲ師ニ請フ
往テ診スルニ脉来ルヲ沈細ニシテ然ノ如シ其腹

狀ヲ按スルニ臍下ニ堅塊アリテ横骨ヨリ生ズル
モノ、如シ其ノ塊咽喉ニ衝ヒテ痛ミ尤モ劇シ師
患者ニ告テ曰此レ血塊病ニアラズ胞中寒スルガ
故ニ胞血運動セズ胞攣縮シテ塊ヲナスモノナリ
胞血ヲ温順セザレバ救ヒ難シ乃チ八味丸煎湯ヲ
作り服セシム婦人弟子ニ謂テ曰汝試ニ往テ診セ
ヨ則チ命ニ從ヒ急ニ往ヒテ之レヲ診スルニ小腹
疼痛コレヲ按スニ石ノ如シ時アツテ咽喉ニ衝テ
痛ミヲナス婦人師ニ告テ曰此レ血塊病ニ似タリ
師笑テ曰塊ヲ指テ血ノ凝結トナシ破血ノ劑ヲ用

ユルモノハ是レ固ニ一定ノ法ナリ此ノ証血ニ似
タリト雖モ其實ハ大ヒニ異ナリ此レ胞中寒テ攣
縮シテ然ラシムルモノナリ問テ曰ク胞ニ寒アリ
テ咽喉ニ衝クモノハ何ゾヤ師答テ曰夫レ妊脉ハ
胞中ニ起ル故ニ胞ニ寒アリテ攣縮スル寸ハ病必
ス咽喉ニ衝クモノナリ復問フテ曰胞寒何ヲ以テ
八味丸ヲ投ズルヤ師曰善ヒカト問フテ夫レ胞ハ
腎膜ノ末ナリ故ニコレヲ潤利スル寸ハ自ラ痊ユ
是レ八味丸ヲ投スル所以ナリ弟子疑シテ復タ診
スルニ咽喉ニ上衝スルモノ半退キ臍下ノ堅塊大

ヒニ軟ナリ疼痛モ亦半ヲ減ス總テ一月計リニシテ諸症全ク瘳ユ

南総東金村壺屋喜兵衛妻積年骨節腫痛ヲ患ヒ百方應ゼズ東都ニ出テ偏ク諸名家ノ手ヲ經テ猶ヲ治セズ依テ温泉ニ浴セント欲シ八町堀儒生谷氏ニ留宿ス師偶其ノ家ニ往キ其ノ病婦ニ面會スルヲ得タリ依テ其故ヲ問フ終始實ヲ以テ對フ師ノ曰余不敏ナリト雖モ請フ試ミニ一診セシ婦喜シテ治ヲ乞フ儒生モ亦然リトス之ヲ診スルニ脉來ルヲ沈ニシテ數ナリ骨節疼痛益劇シ時ニ掌中

赤紋ヲ見ハシ出沒變アリ復タ諸醫ノ主劑ヲ問フニ羌活附子ノ類ニアラザレバ麻黃烏頭ノ輩ヲ投ス師云此レ羌活ノ能ク治スル所ニアラス此レ濕ト血ト相ヒ搏テ所致ナリ温泉ニ浴ストモ効ヲ得ガタシ余ガ處スル一方ヲ服スベシ必ス效アラシ儒生意不信ヲ懷クト氏病婦師ノ言ヲ納ルヲ以テ止ム事ヲ得ズ之ヲ諾ス師之レニ投スルニ桂枝茯苓丸煎湯ニ茅根ノ加テ服セシム六七日ニシテ赤紋漸漸ニ退キ腫痛半ヲ減シ總テ一月計リニシテ患ヒ除ヒテ復ス

東都木挽街上総屋某妻臨月ニシテ俄ニ漏下ス治
ヲ師ニ請フ往テ診シテ曰余レ分娩セシムベシ患
ルヲ勿レ然レモ一病家アリ曾テ余ニ委任ス今病
人危篤ノ症ニシテ其家人未明ヨリ来テ余ヲ延ク
是レ黙止難シ故ニ之ヲ診シテ後余又来ニ暫ク之
ヲ待ツベシ若余カ術ヲ以テ不分娩寸ハ死ヲ救
フタハス必シモ疑フヲ勿レ若シ自ラ分スル期ニ
及バ、余ガ門徒ヲ招クベシ然ラザル寸ハ婦ノ命
當リニ危カラシ余カ家ノ一術ヲ施スニ非スニバ
救得ズ既ニシテ去ル師往テ只一家ヲ診シ他ニ及

バズシテ歸リ又上総屋ニ至ラントシテ彼レ来ル
ヤ否ヤト問家人知ラザルヲ以テ答フ師歎シテ曰
嗚呼小人ナルカナ我カ言ヲ信ゼズ然レ師惻隱ノ
心厚ク人ヲ救フノ情不止憐ミヲ加ヘ又門人ヲシ
テ其夫ヲ呼ハシム之ニ言テ曰汝妻分タルヤ否ヤ
曰未タ分セザルノミ師曰我今日汝妻ノ危キヲ救
ハント欲シ病家ヲ診スルヲ徧クセズシテ歸ル世
ニ産科多シト雖モ余カ掀起ノ術ヲ知ラザル寸ハ
效ヲ得ルヲ難シ分スト雖モ母子豈ニ全タカラン
ヤ余レ往テ救フベキヤ夫曰家ニ老母アリ之レニ

問フテ救イヲ求ムヘシト云師復言テ曰死生急ナ
リ汝テ何ソ之ヲ緩ルフスルヤ母ニ告テ早ク来ル
ベシ一時計リヲ過テ尚来ラズ竊ニ聞クニ一醫生
師ヲ謗テ曰今分スル寸ハ必ズ可死ノ理ナシ然ル
ヲ却テ分ト正ニ死スベシト云フ者ハ非ナル哉彼
踵ヲ權豪ニ企テ名利ヲ求ムルガ為ニシテ此言ヲ
出セリトコレ病家ノ師ヲ不信セ所以ナリ頃刻ニ
シテ忽チ一人狂走シテ来リ門扉ヲ叩キ告テ曰彼
婦今分娩ス血暈ノ急アリ請フ一診ヲ祈ルト師其
使ニ謂テ曰血暈ニアラス恐クハ絶命ナラン往モ

益ナシト強テ請フ依テ門人ニ命シテ行カシム果
シ黄泉ノ客トナル此レ掀起ノ術ニアラザンバ救
フニアタハスト云モノハ是ヲ以也掀起ノ術ハ即
チ師發明ノ術也

一諸侯臣安井氏妹年二十餘臍下一塊ヲ生ス醫ヲ
延ク一數人或大黃牡丹湯ヲ與ヘ或ハ桃核承氣湯
其餘破血ノ劑ヲ進ムルモノ數人經年猶ヲ痊ズ
連綿トシテ歲月ヲ引キ依テ治ヲ師ニ求ム往テ之
レヲ診スルニ脉沈細ニシテ數心下ヨリ小腹ニ至
ルニテ堅滿シテ石ノ如シ手足羸瘦シテ骨ニ皮ス

ルカ如シ以為ク此レ血塊病ニアラズ恐ラクハ腸
癰ノ一種ナラン遂ニ千金内托散及鼻穿山甲ヲ加
テコレヲ服セシム十日計ニシテ俄ニ神闕ヨリ膿
水ヲ出ス依テメイチヤヲ納レテコレヲ試ム長サ
尺餘メイチヤ出入スル毎ニ膿水湧出スル一升
餘其夜出ル一復二升計リ其翼出ル一升餘中ニ
毛髮膿汁ニ交リ出ル一二三條共ニ長サ尺有五六
寸其夜復毛髮ヲ出ス一掬スベキナリ續テ出ル一
一握ニ滿ツ從テ塊半ヲ減テ復一握許將出ントノ
引ケ出テス強テ之レヲ出ニ及テ膿水從テ出ル

一三四升後毛髮ヲ出ス一前ノ半ニシテ塊物全ク
消ス唯膿汁ヲ出スノミ日ヲ經テ止ミ諸症全ク痊
ヘテ明年嫁娶ス師曰此ノ証血塊病ノ變化ニテ然
ルモノカ復寡婦ノ鬱結ニヨツテ然ルモノカ此ノ
如キ瘵疾奇患余レ始テ逢フト云爾

龍負先生之於產科以意
得其術者也余雖聞其論
說猶未信也及親視其術
効頓解舊疑而平行第
子之禮嗚乎吾之所存則
神之所存也然則其術之

妙不可亦測焉其所論述
皆新創之意也讀者如鑒
之為書則豈亦謂無神効
乎文政己卯冬

門人 片山壽德藏

江戶 玉峰為則書

沖鶴年銘

凡事至於其妙者在於深思
不且焉耳深思不且則有神
神焉不造也深不且則有神
取之在書多造之在系連人之所不
及通人之所不能者蓋在於形
矣先聖之術至于其妙者以于思

而不知其也。其所著之書皆新
出之書。凡諸君子其人者也。
其所以名產科新論者。豈偶
然哉。
文政己卯冬門人柳見仙敬誌



立野龍貞先生著述目次

產科新論 全三卷

折肱齋醫談 嗣刻

文政三庚辰年九月吉日

日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

兩國吉川町

東都書林

山田佐助

淺草第町三丁目

須原屋伊八

